

□ ■ バンコクの旅行会社に島根県の魅力を PR ■ □

～過去最高の入場者数を誇る日本博出展と共に～



NIPPON
HAKU
BANGKOK 2023

こんにちは。島根・ビジネスサポート・オフィス神谷です。タイでは9月—10月にかけて日本関連のイベントが目白押しですが、中でも9月1-3日の3日間、バンコクを中心部にあるサイアムパラゴンというショッピングモールで開催されたバンコク日本博2023は過去最高の入場者数12万9000人（主催者発表）を記録しました。

イベント自体は日本への留学、日系企業の就職情報、日本の観光情報、日本ブランド・サブカルチャー・食品の紹介など多様なテーマで日本の魅力を紹介しています。今回の日本博では目玉の一つとして、日本酒・焼酎の小売・卸をタイで展開しているSCSトレーディング社が同社の創業20周年を記念して「KAMPAI BANKOK 2023」と銘打って、20歳50銘柄の日本酒（一部焼酎）1000THB（パーツ）飲み放題のイベントを開催していました。島根県からは李白酒造様と簸上清酒様がブースを出されていました。両社のブースはもちろんですが、会場内には圧倒的に日本人よりもタイ人のお客が多く、体感では90%タイ人のお客様、10%日本人のお客様という状況です。私はタイに移り住んで8年目になりますが、タイの方にここまで日本酒を飲んでいただけるとは！と驚きをもって会場を眺めていました。7年前、初めて飲食関係の展示会に参加した際に大手の酒類インポーターさんに聞くと、タイの富裕層の方々はワインは好むが日本酒はそれほどでもない、若い女性には梅酒が人気だと聞いていて、日本酒がタイの方々に浸透するのは時間がかかりそうだなと感じましたが、KAMPAI BANKOK 2023の光景は忘れられないものになりそうです。これを機会に、タイの方々にとって日本酒が少しでも身近なものになってくれることを願います。



また、日本博には昨年から引き続き、島根県は観光ブースを出展しました。ブースには3日間、多くの来場者が訪れ、島根県の観光情報を収集していました。タイから日本への旅行者はリピーターになる方も多く、東京や大阪・京都など著名な観光地に飽き足らず、「自分だけが知っている場所」「他の人がまだ知らない日本の魅力の再発見」を求めているように感じます。

日本博終了後、9月5日に島根県観光振興課主催でバンコクの旅行会社向けにランチセミナーを開催したところ、参加した12の旅行会社14名の方々からも、そうしたお声をいただきました。



写真左：ランチセミナーでご挨拶される観光振興課のお二人



写真右：プレゼンテーションの様子

セミナーではまず観光振興課の方々に開催の目的とご挨拶をいただいた後、実際に島根県を訪問したことのあるタイ人スタッフから島根県の魅力をプレゼンテーション、併せて今年実際に島根県を訪れるツアーを催行して下さった旅行会社さん（マリタイム社）からツアーの行程やツアー参加者の声などを共有いただきました。マリタイム社の方は石見銀山が最も印象に残ったと熱く語っていらっしゃいました。プレゼンテーションとマリタイム社さんからの情報共有の最中も、旅行会社の皆さんからは活発なご質問が飛び交い、盛況のうちに2時間のランチセミナーは終了しました。

特に旅行会社各社がタイのお客向けツアーをつくるにあたって、まず大阪や広島などからのアクセス、様々なアクティビティの価格などに質問が集中していました。また堀川遊覧に関心を持ってくださったのか、これに関する質問と、稲佐の浜の国引き神話にご質問いただく方が多かったのが非常に興味深い結果でした。観光に限らず日本の食品を販売されているインポーターさんからも「ストーリーのある商品が欲しい」というお声をいただくこともあり、観光地も同じくその地にかない「ストーリー」に関心を示されるのだと感じました。



写真右：旅行会社各社と積極的に名刺交換・島根県をPR

参加者のアンケートでは「島根のどんなところをタイ人が好きになると思いますか？」という質問に対して、

- ・ 高齢者は、観光地の歴史や綺麗な場所に興味を持ちますが、若者は、出雲大社の縁結び、八重垣神社の縁結びに興味を持つと思います。
- ・ 花公園、紅葉
- ・ 桜、温泉
- ・ 静かな町、観光地がたくさんある場所。

などの回答をいただき、島根県を含むツアーをすぐにでも作りたい会社 4 社、検討・条件が揃えばという会社が 6 社と今後の動きに期待できる結果となりました。引き続き SNS で島根県の情報発信を通して、島根県の魅力を多くのタイの方々に届けていこうと思います。

□ ■ 島根企業 5 社も出展！！ Medical Fair Thailand イベントレポート ■ □



こんにちは。島根ビジネスサポートオフィス柴田です。

今回は、2023年9月13日（水）から15日（金）の3日間にわたり、タイ・バンコクのBITECにて開催された、東南アジア最大級の医療関連の展示会、「Medical Fair Thailand 2023」についてレポートをいたします。

Medical Fairは、バンコクとシンガポールで一年ごとに交互に開催地を変え行われる、東南アジア最大級の医療及びヘルスケア関連の展示会です。今回はコロナの影響もあり、2019年以来約4年ぶりにバンコクで開催されることとなりました。

主催者の発表によると開催期間3日間の来場者数は、世界の74カ国から合計10,048人の来場者を記録し、そのうち約40%が東南アジアからの来場者でした。出展企業も40カ国から約800社と、2019年の来場者11,525人、出展企業900社にはおよびませんでした。コロナ前に近い成果を上げました。上の数字からも国際的、特に東南アジアの中でも注目度の高い展示会だと言えます。

このMedical Fair Thailandには、世界の22の国と地域が出展し、日本からも島根県を含む4つの自治体（島根県、東京都、福島県、神戸市）が出展しました。島根県はしまね産業振興財団としてブースを出展し、計5社の島根県企業が出展しました。5社のうち4社は実際に企業の方も来泰し、ブースに立って自社の製品、サービスを来場者へ紹介いただきました。



島根ブース出展企業 5 社概要

出展企業（50音順）	出展製品・サービス
株式会社アルプロン	プロテインおよびプロテインドリンクの製造販売。
株式会社SKSS	高齢者向けの介護予防教室の運営。
株式会社ERISA	Support Brain - AIによる認知症将来リスク予測プログラム。
関屋補綴歯科工房	インプラント・義歯の技工、補綴装置の製作。
モルツウェル株式会社	全国高齢者施設向け調理済み食品の製造販売。



会期中は多くの外国企業がブースに立ち寄り、島根県企業の皆様と情報交換や具体的なビジネスの話をされ、タイを含む東南アジアについての情報収集や展開の可能性について検討をいただく絶好の機会となりました。3日間で海外企業計 100 社以上が出展企業 5 社と名刺交換をし、そのうちの複数の外国企業は高い関心を持ち、展示会終了後もオンラインでの商談を継続、協業の可能性を協議しています。

実際にバンコクへ渡航された 4 社は展示会への出展だけでなく、しまね産業振興財団の企画によりバンコクにある病院 2 院への視察も実施をしました。

視察を受け入れていただいた、プリンス・スワンナプーム病院（Prince Hospital Suvarnabhumi）およびチュラボーン王立病院（Chulabhorn Hospital）では、病院内の見学ツアーを組んでいただいた他、病院の概要の紹介やタイの医療に関するプレゼンテーションをいただき、タイの医療に関する生の声を聞く貴重な機会となりました。



タイとシンガポールはそれぞれ、東南アジアでトップの高齢化国であり、2022年の両国の65歳以上の高齢者の割合は、タイで15.21%、シンガポールで18.4%となっています。日本の同年の数字は29.1%であるため、比較すると大きな差がありますが、高齢者の割合は日本を上回る速度で急速に上昇しています。このため、両国において高齢者ケアや高齢者向けのサービスの質の向上は喫緊の課題となっています。

一方で、両国の医療水準は世界的に見ても非常に高い水準にあり、メディカルツーリズムの目的地として、世界中から患者の呼び込みに成功しています。

両国の医療水準が高水準である1つの基準として、JCI (Joint Commission International) 認証があります。1994年に第三者の視点から医療施設を評価することを目的に設立された国際非営利団体 JCI 審査を行うものであり、患者の安全性が担保されているか、高品質な医療が提供されているか、院内に継続した改善活動が行われる仕組みがあるか、を評価するもので、世界の中で最も厳しい基準を持つ第三者評価です。

この JCI 認証を受けている医療機関の数が JCI のウェブサイトから確認できますが、認証機関の数は、日本が 31 に対してタイは 61 と、倍近くの数を有しています。今回視察を行ったプリンス・スワンナブーム病院 (Prince Hospital Suvarnabhumi) も同認証を受けた病院の1つです。また、シンガポール国内の認証機関は 5 と少ないですが、前提として医療機関の数が 29 と少なく、国内の約 6 分の 1 の機関が認証を受けていることを考えると非常に優れた数字と言えます。JCI の認証機関数は 1 つの基準にすぎませんが、医療において両国が東南アジア、ひいては世界の中でも高水準を保っているのは間違いありません。



【最後に】

冒頭で述べた通り、この Medical Fair はタイとシンガポールで毎年交互に行われる展示会です。次回 2024 年は展示会名を「Medical Fair Asia 2024」とし、シンガポールの Marina Bay Sands にて、9 月 11 日から 13 日の 3 日間にわたり開催され、出展企業の受付も開始されています。また、少し先の話になりますが、2025 年の Medical Fair Thailand の開催日程も 9 月 10 日から 12 日で発表されています。

医療やヘルスケア分野で事業を行う企業の皆様にとって、展示会が行われるタイやシンガポールだけでなく、東南アジアの周辺国やアジア諸国、欧米の企業からも注目を集める「Medical Fair」は、世界に向けて製品やサービスを発信する絶好の機会であるといえます。

海外展開への第一歩として出展を検討されてみてはいかがでしょうか。



Medical Fair Asia 2024 公式サイト : <https://www.medicalfair-asia.com>

Medical Fair Thailand 2025 公式サイト : <https://www.medicalfair-thailand.com>

□ ■ タイの少数民族タイ・ルー族の生活体験 バーンペトンヤーンガム村 ■ □

こんにちは。島根ビジネスサポートオフィスのタイ人スタッフ、アイです。

タイはタイ族、華人、マレー系、インド系やその他の多くの少数民族で構成される多民族国家です。ただ、人口の約 8 割がタイ族、華人が約 1 割と、タイ族が大多数を占めます。少数民族の中では、タイ北部のチェンマイ郊外に住む首長族、カレン族の住む村は、タイの民族文化に触れることができる観光地として有名です。

チェンマイ以外にもタイ北部のランブーン県ではタイヨン属、タイルー属、モン属など様々な部族が生活し、独自の文化を育んでいます。今回はこのランブーン県にある、タイの少数民族の 1 つである、タイ・ルー族の生活や文化が体験できる、バーンペトンヤーンガム観光村について紹介いたします。



【バーンペトヤーンゲーム (Ban Phae Ton Yang Ngam) とは？】

バーンペトヤーンゲームは、タイの少数民族であるタイ・ルー族が住んでいる小さな村で、ランブーン県バーンティ市バーンティ町に位置しています。タイ・ルー族は中国の雲南省にルーツを持つ民族で、多くの支流があり、中国、ラオスやタイ国境沿いの山の広い範囲に住んでいます。

このタイ・ルー族が住むバーンペトヤーンゲームは、“バーンペ” という略称で呼ばれています。同村は、2015年に自給自足経済のモデルケースとして選定されており、現在はタイ・ルー族の文化的生活を体験できる観光スポットとなっています。

【バーンペトヤーンゲームで体験できるアクティビティ】

① 郷土料理

村の女性が調理した民族の郷土料理を楽しむことができます。有名なものは、ナムプリックヌム（唐辛子ベースのタイ風のディップ）やケープムー（豚の皮）、バナナの花のカレー、ナムプリクオン（タイ北部のディップ）、魚焼きと蒸し野菜のナムプリック添え、カイパーム(カイパームとは、油を加えずにバナナの葉の上で揚げた卵で、バナナの葉の香りが漂うものです。)などです。



出典：<https://www.ccfthai.or.th/news/view/b1KP05PYQ6IX/>

② バスケット作り

バナナの葉を綺麗に尖った細長い形に折り、バスケットを作ります。このバスケットは、地域の様々な儀式で使用されています。たとえば、ブツダに敬意を表し、許しを求めるために、供え物をバスケットに入れるなどといった使い方がされます。



③ バーンペ礼拝堂への参拝

バーンペに来たら最初にやるべきことは、400年以上前に建てられた古代寺院への参拝です。この場所は村の重要な宗教儀式やお祭りに使用されています。この儀式の中には、家族や街の重要なゲストを迎えることも含まれます。この寺院は村人の心の中心となっています。

④ サイクリング

自転車はバーンペに住む人々が日常的に利用する移動手段です。市場での買い物や近所への移動などに使われており、コミュニティの空気汚染の削減などに貢献しています。村の周辺を散策するのにも最適で、次に紹介するホームステイにも含まれるアクティビティです。



⑤ ホームステイ型宿泊施設

バーンペには全部で7軒、ホームステイ型の宿泊施設があります。宿泊施設の隣には田んぼや野菜をする畑が広がっており、宿泊者は施設のオーナーと一緒に野菜を収穫し、その家族と一緒にローカルの料理を作って食べるなど、より現地の人々が送る生活を実際に体験することができます。



【最後に】

タイの文化に触れ、美しい自然の中でローカルの人々が送る生活を体験したい方は、歴史と文化が詰まったバーンペトンヤーンガームを旅してみてもはいかがでしょうか。



※別紙に、年内に開催予定のタイ・インドネシア・ベトナムの展示会情報をまとめました。

サポートオフィスでは、現地で開催される展示会へのアテンドも行っております。

関心のある展示会がございましたら、お気軽にご連絡ください

担当：神谷 靖子 Yasuko Kamiya

Address: 1 VASU1 Building, 12 FL., Room 1202/D, Soi Sukhumvit 25,

Sukhumvit Rd., Klongtoey-Nua, Wattana, Bangkok 10110

▶ タイ経済指標

項目	単位	2020	2021	2022	2023
GDP 成長率	前年比ベ (%)	-6.2	1.8	2.7	2.2 (6月)
人口*	千人	68,152	68,161	69,922	70,023 (6月)
労働者の数*	千人	39,451	38,631	40,143	40,677 (8月)
失業率**	%	1.62	1.94	1.32	1.05 (8月)
最低賃金*	バンコク	331	331	353	353
	チョンブリー	336	336	354	354
	アユタヤー	325	325	343	343
	ラヨン	335	335	354	354
賃金：全国製造業の平均	バーツ	13,562	13,506	14,305	14,422 (6月)
インフレ率**	前年比ベ (%)	-0.84	1.24	6.08	5.45 (4月)
中央銀行政策金利*	%	0.50	0.50	1.25	2.25 (8月)
普通貯金率**	%	0.31	0.25	0.28	0.40 (9月)
ローン金利 (MLR) **	%	5.60	5.42	5.50	6.72 (9月)
SET 指数*	1975年：100	1,449.35	1,657.62	1,668.66	1,471.43 (9月)
バーツ/100円**	バーツ	29.33	29.15	26.78	25.05 (9月)
バーツ/米ドル**	バーツ	31.29	31.98	35.06	34.52 (9月)
円/米ドル**	円	106.8	109.8	131.38	147.67 (9月)
車販売台数 (1月からの累計)	台数	779,857	736,716	856,057	856,057 (22年)
BOI 認可プロジェクト	件数	1,501	1,572	1,554	1,058 (6月)
BOI 認可プロジェクト金額	10億バーツ	361.41	511.9	618.62	377.35 (6月)

*期末、**平均